

子どもたちの成長が実感できる、つつじが丘の実りの秋

副校長 小山 進治

秋来ぬと目にはさやかに見えねども 風のおとにぞおどろかれぬる (藤原 敏行)

9月過ぎ、実りの秋を迎える10月に入りました。晩夏から初秋に私が毎年思い出すお気に入りの短歌があります。それが冒頭で紹介したこの一首です。9月上旬の朝会講話の中で、子どもたちには紹介しました。古今和歌集にも選ばれているこの一首、現在は小学校の教科書にも掲載されています。簡単に解説しますと、「秋が来たとは目にははっきりと見えなけれど、聞こえてくる風の音で、秋が来たことにはっと気付く。」というものです。この短歌は立秋の日に詠まれたそうですが、昨今は暦と気候が当時とはずいぶん違ってきました。地球温暖化の影響からか、本来素晴らしい四季がある日本の春と秋が年々、短く感じられる気が私にはしています。まだまだ日中は暑さを感じる時季が続きますが、朝夕の涼しさを肌で感じたり、虫の音を耳にしたりすることを通して、少しずつ秋めいてきたことをここ最近では実感しています。自然と都会が融合するこの広い横浜の中でも、つつじが丘小は青葉台駅から徒歩圏内の閑静な住宅街にある都会の学校です。しかしながら夏から秋へと季節が変わりゆく様子を様々な場面で十分感じることが出来ます。

さて、目に見える形でつつじが丘小も実りの秋を迎えています。5年生が総合的な学習の時間で取り組んできた稲作学習もピークを迎え、黄金色の稲穂が校庭から子どもたちを見守っています。自然の実りだけでなく、子どもたちの学びの成果も着実に実っています。先頃、令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。9月30日に6年生児童には分析結果を配付し、学校ホームページにも掲載いたしました。詳しくはそちらをご覧ください。今回の結果を見ると、検査対象の国語、算数、理科の3教科とも全国及び神奈川県平均正答率を上回っています。評価の観点ごとに見ても、全てにおいて平均正答率を上回っていました。本校の児童が、知識及び技能、思考力、判断力、表現力ともに高い水準にあることが分かりました。理科の調査結果は次の通りです。

【理科の調査結果】

分類	区分	平均正答率 (%)			
		つつじが丘小	神奈川県	全国	
全体		67.0	63.0	63.3	
学習指導要領の区分領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	52.7	51.8	51.6
		「粒子」を柱とする領域	66.3	59.5	60.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	77.5	75.6	75.0
		「地球」を柱とする領域	68.8	64.9	64.6
評価の観点	知識・技能	67.2	61.8	62.5	
	思考・判断・表現	66.3	64.2	63.7	

本校では、令和2年度から生活科・理科を取り上げた重点研究に取り組んでおり、今年で3年目となります。中心講師として元横浜市立学校長であり、現在、横浜創英大学こども教育学部学部長の大内美智子先生をお迎えして、継続した研究に取り組んでいます。重点研究の最大のねらいは学校教育目標の達成と子どもたちの学力向上につながる授業改善です。9月中旬も1年生、4年生で授業を含めた研究会を行いました。重点研究会のテーマの副題は「人とかがわろう、自分で課題を見つけよう、自分で考えを解決していこう」です。研究の成果がすぐに学力の向上につながるわけではありませんが、子どもの気付きや課題解決のための思考を大切にされた授業改善が結果の一因にあると捉えています。引き続き、子どもたちの学びを豊かにし充実したものにしていくことを大切にしていきます。

実(みの)るほど 頭(こうべ)をたれる 稲穂(いなほ)かな

これは9月の下旬の朝会講話で紹介したことばです。意味は「学問や技能が深まると、他人に対してますます謙虚になることのとえ」です。運動会まであと三週間、残暑が厳しい中でたくさん汗をかきながらの練習の日々が続きます。熱中症と感染症の対策にバランスよく努めながらも、子どもたち一人一人を大切にされた個別最適な学びが豊かになるように、教職員一同謙虚な姿勢で教育活動を紡いでいきます。今月もよろしくお願いたします。